

3．流域及び河川の自然環境

3-1 流域の自然環境

地形は、最上流部の日高山脈が日高造山運動の時代に概成された標高 600m 以上の大起伏山地で、山腹斜面は急峻な満壮年期的な地形をしており、標高 1,600m 以上の山腹にはカール地形が発達している。また、上流部は標高 200～600m 程度の中小起伏山地で、河川沿いに砂礫台地が広がる。中流部はおおよそ標高 200～400m の小起伏山地で、河岸段丘の発達が顕著な晩壮年期的地形を示している。下流部は、標高 100m 以下で、河岸段丘も見られ、平取本町から下流部には沖積平地の発達もみられるようになり、晩壮年期、老年期的地形を示す。

流域の植生は、流域面積の 82.6%を占める森林植生に代表され、その分布は気候条件により温帯、低山帯、亜寒帯、高山帯に区分される。温帯、低山帯植生は標高 500m 程度までにエゾイタヤ、シナノキ群落が見られ、センノキ、ハルニレ等を随伴して分布する。亜寒帯、亜高山帯植生はこの群落の上流で標高 1,000m 程度までの間にエゾマツ、トドマツ群落、エゾマツ、ダケカンバ群落がアカエゾマツ、ナナカマド、ヤマモミジ、シウリザクラ、ハナヒノキ等を随伴して分布する。このうちエゾマツ、ダケカンバ群落の日勝峠付近は「沙流川源流原始林」として天然記念物に指定されている。この群落の上流は高山帯に移行し、矮小なダケカンバ、ハイマツ等が続く。植林地としては、標高 500m 以下にカラマツ等を主体とする人工林が分布する。これらの森林の林床はササが優占し標高 1,000～1,200m まではクマイザサ、それ以上の標高ではチシマザサが分布する。

流域の動物は、多様な自然環境を有する日高山系に属し、動物相は極めて豊富で哺乳類の貴重種としては、エゾクロテン、ナキウサギなどが生息し、鳥類の貴重種としては、天然記念物のオジロワシ、オオワシ、シマフクロウなどが確認されている。昆虫類では、幌尻岳周辺に天然記念物のダイセツタカネヒカゲ、カラフトルリシジミが生息し、この他、貴重種としてヒメギフチョウ、ジョウザンシジミが確認されている。両生類では貴重種のエゾサンショウウオが確認されている。



沙流川河口



沙流川中流域



沙流川上流域

3-2 河川の自然環境

1) 上流部

最上流部は、河床は岩盤で樹林が河岸近くまで繁茂し、清澄な渓谷流で河床は比較的安定しており、平地、段丘地形もなく、原始河川の状態となっている。これより下流は、段丘地形が広がり河相は溪流で、岩盤等で構成され渓谷などが形成されている。

河道内の植生は、河岸及び隣接地にエゾマツ、トドマツの針葉樹林が見られ、哺乳類は、貴重種のナキウサギ、エゾクロテンや大型獣のエゾシカ、ヒグマなどが確認され、魚類は、清流にすむオシヨロコマ、サクラマスなどが生息する。



写真 3-1 沙流川上流部

- ・河床が岩盤等で構成され渓谷などが形成されている。
- ・エゾマツ、トドマツ等の針葉樹が河岸近くまで繁茂している。
- ・オシヨロコマ、サクラマス等が生息する。
- ・ナキウサギ、エゾクロテン、エゾシカ、ヒグマが生息する。



(無断転載・複製を禁ず)

写真 3-2 サクラマス

サクラマス (ヤマメ、北海道ではヤマベ)

サケ科

Oncorhynchus masou

北海道でヤマベといえは、川や湖で一生活を生活する河川残留型のサクラマスを含め、河川で見られる小型のサクラマスのことをいう。本来のそ河回遊型のものは降海して、沿岸を回遊し、急速に成長して大型のマスになる。サケなどのように北洋に出ることはない。主に流れてくる昆虫を食べる。2年目の春、13~16 ㍍に成長、鮮やかな銀白色を帯び、ウロコがはがれやすい銀毛ヤマベは海へ下る。多くの雄は、成長と成熟が急速に進み、これらは銀毛することなく川に残る。その結果、海へ下るものは雌が極めて多くなる。

海での生活は1年で、沿岸で小魚や浮遊動植物を食べて生活、大型のものは60 ㍍以上になり、3~6月に川へのぼり、川で成熟したヤマベとともに秋に産卵する。一般に北海道でヤマベ、本州でヤマメと呼ぶ。

2) 中流部

中流部は、河岸段丘が発達し、上流部に比べ河床勾配も緩やかになり流れが穏やかで河床堆積砂利も多くなり瀬と淵が見られるようになる。

河道内の植生は、カラムツやヤナギ類が河岸近くまで迫り、哺乳類は、中流部から下流部ではエゾリス、シマリスなどが生息し、鳥類は、河岸にカワセミ、平野部にイソシギなどの河川性の種が生息する。魚類は、サクラマス、ハナカジカなどが生息する。



写真 3-3 沙流川中流部

- ・ 上流部に比べ、河床勾配が緩やかになり流れが穏やかになる。
- ・ 瀬と淵が見られる。
- ・ カラムツ、ヤナギ類が河岸まで繁茂している。
- ・ サクラマス、ハナカジカが生息する。
- ・ カワセミ、イソシギが生息する。

3) 下流部

二風谷ダム地点より下流は高位段丘がみられ、右岸側主体に堤防が続き、河口付近は扇状地形で両岸に堤防が設けられている。また、高水敷は、採草地、放牧地として利用されており、河床部は、河床堆積砂利が多くなり瀬と淵が連続する。

河道内の植生は、ヤナギ類やヨシ類が水際部付近に見られ、哺乳類は、エゾタヌキ、キタキツネなどが見られる。

鳥類は、ヒシクイ、ヨシガモなど、河口部では天然記念物のオジロワシ、オオワシなどが確認されている。魚類は、コイ、ハゼなどが生息し、シシャモ、サケ、サクラマス等が遡上する。



写真 3-4 沙流川下流部

- ・ 右岸を主体に堤防が続き、河口付近で両岸に堤防が設けられている。
- ・ 瀬と淵が連続する。
- ・ ヤナギ類やヨシ類が水際付近まで茂っている。
- ・ 高水敷は採草地、放牧地として利用されており、河口付近ではせせらぎ公園として利用されている。
- ・ シシャモ、サケ、サクラマスが遡上する。



(写真提供 / 鶴川町)

写真 3-5 シシャモ

シシャモ

キュウリウオ科

Spirinchus lanceolatus

沿岸にすみ、ゴカイなどを食べて生活、2年で11~16センチになり成熟する。産卵の時だけ川にのぼる。10~12月にかけて夜間に海から川へ大群でのぼり、流れのある浅い砂地で産卵する。川にのぼるシシャモの雄は体が黒ずみ、雌雄ともヌメリがなくザラついている。1尾の雌に数尾の雄が寄り添い、川底の砂をはじき飛ばすようにして産卵する。1尾の雌は直径1.5ミリほどの卵を約9,000個産む。ふ化した子魚はすぐに海へ下り、沿岸での生活を始める。

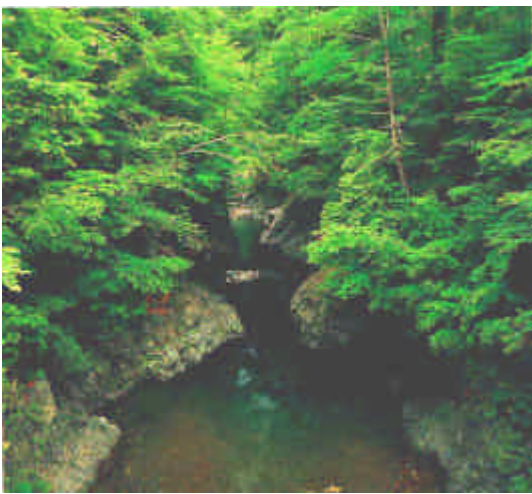
アイヌ語でシュシュハムといい、柳の葉の魚の意。天上から落ちた柳の葉を神が哀れみ、命を与えて魚にしたという伝説がある。

3-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 景 観

中・上流部は、渓谷地形と両側を覆う森林美、幌尻岳、チロロ岳、貫気別山の山岳景勝地などの自然景観と二風谷ダムにより創出された湖景観で構成される。特に、沙流川源流原始林は、日高山脈襟裳国定公園の一部で天然記念物に指定されており、このほか幌尻岳の七ッ沼カール、紅葉や深緑の中を落ちるサンゴの滝、チロロ峡の峡谷、美しい絵画を思わせる轟ガロウ、切り立った断崖が続く日高竜門、深緑の中水音を響かせる仁世宇ガロウ、平取ダム左岸沿いに広がるスズランの群生地などが有名である。

中・下流部は、朝霧に浮かぶ遠くの山々を背景に牧歌的な田園風景が広がり、このほか市街地の街並み、河口の海岸景観、親水性に富んだ水際空間などで構成される。



日高町
緑の回廊・千呂露峡



門別町
太平洋にそそぐ



門別町
優駿の里



平取町
スズランの群生地

(2)文化財及び史跡

表 3-1 沙流川流域の指定文化財の現況

種類	名 称	所在及び指定年月日	概 要
国 指 定	沙流川源流原始林	日高町 昭和45年12月 4日	日高町市街地から上流側へ30km程の区間の沙流川両岸一帯のトドマツ、エゾマツを主としたダテカンバ等の樹林地帯であり、北海道冷湿帯上部の代表的な原生林とされている。また、エゾシカ、ナキウサギ等の動物の生息が確認されている。
	アイヌ古式舞踊	平取町 昭和59年 1月29日	北海道一円に居住しているアイヌの人々により伝承されている芸能で、祭祀の祝宴等、様々な行事の際に踊られるアイヌ独自の振興を根ざす歌舞で、その様式は極めて古能をとどめ、芸術史的な勝ちが非常に高いものとされている。
道 指 定	門別富仁家盛土墳墓群	門別町 昭和38年12月24日	門別町市街地より西北に約40km離れた標高約50mの段丘上にある墳墓群で、縄文晩期より続縄文の文化期にかけて形成されたものである。墳墓の直径は1 m程度の円または楕円形をしており、深さは0.5～1 m程度であり、その時代の先住民の葬制を知る上で非常に重要なものである。
町 指 定	ユーカラ（英雄叙情詩） カムイユーカラ（神謡） ウェベケレ（民謡）	平取町 昭和59年 4月17日	アイヌ民族無形文化財の中で、古くから伝承されてきた極めて勝ちの高い文化遺産であり、これを守り後世へ語り継ぐことを目的に町指定し、合わせて保持者を確認する。保持者故西島てる、故木村きみ、故黒川きよ、故川上まつ子。

資料：沙流川水系河川環境管理基本計画
基本資料



富仁家墳墓群・北海道指定史跡（門別町史）



沙流川源流原始林

3-4 自然公園等の指定状況

沙流川流域は、自然環境に恵まれた地域は数多く存在しており、これらを保護、保全、管理することにより、後世に残し伝えていくうえで指定されている。

沙流川水系の自然公園等の法令指定状況は、以下のとおりである。

(1)鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律に基づく鳥獣保護区

指定理由：森林鳥獣生息地の保護区

名称：日勝	沙流郡日高町所在	877ha	平成 2.10.1～平成 12.9.30
名称：アベツ	沙流郡平取町所在	967ha	昭和 58.3.31～平成 15.3.30
名称：二風谷	沙流郡平取町所在	1,296ha	平成 9.10.1～平成 19.9.30
名称：穂別	勇払郡穂別町所在	447ha	昭和 58.3.31～平成 15.3.30
名称：和カクシャップ	沙流郡日高町所在	562ha	昭和 58.3.31～平成 15.3.30
名称：振内	沙流郡平取町所在	1,172ha	昭和 58.3.31～平成 15.3.30

指定理由：誘致地区の保護区

名称：平取 沙流郡平取町所在 55ha 平成 3.10.1～平成 13.9.30

(2)国指定天然記念物

名称：沙流川源流原始林

日高市街から、東北東に約 30km の地点の両側一帯に位置する。トドマツ、エゾマツを主とし、ダケカンバ等も交える。北海道の冷温帯上部の代表的原生林。エゾシカ、ナキウサギも生息している。

(3)国定公園

名称：日高山脈襟裳国定公園

日高山脈襟裳国定公園（昭和 56 年 10 月 1 日）は、北海道中南部の標高 1,500～2,000m級の峻険な褶曲山脈である日高山脈と襟裳岬一帯の面積約 103,447ha の範囲で、高山植物や発達した針葉樹林及びダケカンバ林等自然性の高い植生が分布し、エゾヒグマ、エゾナキウサギ、高山チョウのカラフトルリシジミ等多くの野生動物が生息している。

(4)道指定 記念保護樹木

義経神社の栗

信仰対象の有無：信仰対象あり。

保護制度指定：自然環境保全地域